

幸

2025.1
Vol.302

謹
賀
新
年

巳



新年にあたり

新得町農業協同組合
代表理事組合長

太田 真弘

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様をはじめ、ご家族の皆様には健やかに新春をお迎えのこと、お慶び申し上げます。また、皆様にはJA新得町の事業運営に対して日頃よりご協力とご理解を賜り、厚く感謝とお礼を申し上げます。

昨年の天候ですが、地球温暖化の影響もあり、1年を通じて気温は高めに経過しました。春先は雪解けも早く、適度に雨も降つたことから播種作業は滞りなく終わり、その後の生育も順調に進みました。6月7月は気温も高めに経過し、雨も少なかつたことから一昨年のような高温障害の心配をしましたが、8月に入ると雨が多く不順な天候となりました。しかし、気温は平年並みとなり、9月10月は大陸からの高気圧に覆われて秋らしい気候で、作物の実入りも進み、収穫作業は無事に終了することができました。このような気候の中で、主要作物の小麦、豆類、馬鈴薯、てん菜、そばなどは平年並みかそれ以上の出来高でした。また、飼料作物も二番牧草は天候不順により刈遅れとなりましたが、一番牧草、青刈りとうもろこしは好天になっています。現在の農業情勢の中、国の食

惠まれ、質・量ともによい粗飼料を調整することができます。

昨年の農畜産物の総生産額ですが、農産物は前年比で10%以上の伸びとなりました。また、畜産について酪農は生産抑制も解け、増産体制に入ることができたことから乳量は順調に伸びているところで、全体を通して令和6年度の農畜産物の販売総額は前年度を上回る予想をしています。

一年を通じて大きな農作業事故もなく、このような実績を残していただいたことはひとえに生産者の努力とJA職員、関係機関の皆様のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

現在の農業環境は多くの生産資材が高騰のうえ高止まりし、その生産費の実態と販売価格がかけ離れており、農業経営は大変厳しいのが現実です。今年3月に新しい農業基本法の次期肥料・農業・農村基本計画が決定されます。現在、その細部の検討が進められているところであります。

料安全保障の確保には持続性のある日本の農業の確立が必要であり、これにはしっかりとした所得確保が大前提であります。今、次年度の農業政策要請が進められていますが、何としても担い手が将来へ希望を持てる政策を示していただきたいと思っています。

町内では、本年が第九次新得町農業振興計画のスタートの年であります。社会情勢が大きく変化する中で、5年後の町内農業を想定するのは難しい面もありますが、このような時こそしっかりと将来を見据えて新得町農業の未来図を皆様と共に策定し、進めていきますのでご協力よろしくお願ひいたします。

結びに、組合員の皆様のますますのご健勝と、今年も無事に豊穣の秋を迎えられますよう、心よりご祈念申し上げ新年の挨拶といたします。



令和7年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事長 樽井 功

新年あけましておめでとうございます。
組合員の皆様におかれましては、日々営農に
更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地
域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃よ
り多大なご尽力をされていることに対しまし
て、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先から天候
に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも
早く進んでおりました。しかしながら、夏場は
猛暑・豪雨による記録的な高温多湿の影響を受
け、各作物等の収量および品質に影響が出た年
となりました。

また、昨年は第31回JA北海道大会が開催さ
れ、「食料安全保障の強化と持続可能な北海道
農業の確立」、「JAの組織基盤の強化と健全
な経営基盤の確立」、「アグリアクション北海
道の推進による農業・食・JAへの理解醸成」
の3つの議案を決議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合員・JA・
連合会が一丸となつて、生産現場の行動変容と
組合員の意思結集による農政運動、JAの経営
管理の高度化やデジタル化の推進による業務効
率化・生産性向上に取り組んでいかなければな
りません。

さらに、消費者の皆様には、JAグループ北
海道統一の情報発信のフレーズである「アグリ
アクション北海道」を浸透させるとともに、効
果的な情報発信により、今まで以上に農業・
食・JAに対する理解を深めていただき、JA
グループが提唱する「国消国産」の認知を広め
てまいりましょう。

結びになりますが、本年は巳年です。巳（ヘ
ビ）は冬眠から目覚め地上に這い出すことが
ら、冬に根をはつた草木が芽を出し「新しい種
子が生まれる」という意味があると言われ、転
じて、巳年は力を蓄えていたものが芽を出す
「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕
生」を意味する年だと言われています。

この謂われにあやかり、本年が北海道農業の
飛躍の起首となること、皆様のご多幸とご健勝
をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします
す。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・農業・農村
基本法が改正され、現状に即した基本理念の見
直しと、「食料安全保障の抜本的な強化」、

連合会が一丸となつて、生産現場の行動変容と
組合員の意思結集による農政運動、JAの経営
管理の高度化やデジタル化の推進による業務効



新年のご挨拶

新得町農業協同組合 青年部

部長 村上 明弘

新年あけましておめでとうございます。

日頃より組合員の皆様をはじめ、JA職員や各関連団体の皆様には日頃より青年部活動に対して多大なるご支援ご協力を頂いております事に青年部を代表して深く感謝申し上げます。

昨年度は能登半島地震から始まり令和の米騒動に続き、農業情勢はロシア・ウクライナ戦争や新型コロナウイルスにより起こった世界経済の急速な悪化からの資材需要の高まり、さらにはドル高円安等の影響により飼料、肥料をはじめとする生産資材等の高騰のあおりを受け、我々農家の経営を圧迫しています。そんな中、食料・農業・農村基本法が改正になり、食料供給基地である北海道十勝の重要性が増しています。

さて、青年部として、活動の中心である食育活動「Sランチ」では長年の活動が実を結んで

学生たちから多く認知してもらい「また食べたい」「こんな作って欲しい」など多くの声をもらつて大変うれしく思つております、昨年は新たに子ども食堂での食材提供を2回行い保護者の方々にも食べていただく機会を増やしました。

こうした活動を行い続け、食農教育をはじめとする食と農の価値を伝え続けたいと思います。

また、一昨年の活動実績発表を通じて同じ大会で発表した三重県の伊賀ふるさと青年部が、昨年新得を研修地として選んでくださいり、小学校でSランチを食べ、農場・圃場視察、意見交換会などを行いました。つながった縁を大事に

今年度は我ら青年部が三重県伊賀市へ研修に行くこととなりました。そこで違う経営体系や生産手法など様々なことを吸収し、今後のJA新得町の発展へつなげていけたらと考えております。

最後になりますが皆様にとつて充実した良い一年になりますことを心よりお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

新得町農業協同組合 女性部

部長 平

かよ子

新年あけましておめでとうございます

女性部の皆様、事務局の渡邊さんには日頃より女性部活動へのご理解とご協力、ご参加を頂き、ありがとうございます。組合員の皆様、関係機関の皆様、私達を支えてくださる農協職員の皆様にも、日頃より女性部活動にご理解、ご指導、ご支援を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

春先から順調に作業が進み、7月は水分不足になりましたが、8月、9月は気温が高めで作

業も進み、無事に秋の収穫を迎えることができました。酪農はますます大変で、私達を取り巻く環境は依然厳しいものがあります。ほとんど

が決められた価格で取引されて、かかったコストは含まれていない：えさがものすごく高騰しているのに乳価は：適正価格と言えるのでしょうか。私達は生産者であり、消費者です。お肉

がなければ買う。命をかけて海に出る漁師さんがいるからおいしい魚を食することができる。ともあります。現場の人達を守らな

ければ、応援して頂かなければ、おいしいものが食べられない。

おいしいもの、あたたかいものを食べると自然と笑顔がこぼれ、幸せな気持ちになります。

食は健康、豊かな心、教育、生きる力につながります。食を守るということは、私達の農業を

守るということ。未来ある子供達のため、若い後継者達が夢と希望を持ち、安心して農業を続

けられるよう、私達も声をあげていきましょう。

私達女性部は部員減少の中、どのように活動を行えば盛り上げられるかを常に考えています。春季研修会を農作業が本格化する前に、ストレッチ等を保健福祉センターなどみにて行いました。4月18日には、西部4町の役員交流会をSunoにて開催し、交流を深めました。また、6月には例年JA本所前に配置するプランターへの花植えを行つてきましたが、今年は国道38号線沿いの花壇への植栽へ変更しました。

定期的に集まり、草取りも楽しむことができました。管外への一泊研修も6月17～18日に旭川

方面にて実施しました。旭川デザインセンターや青い池、上野ファーム等へ行き、森の湯花神楽でおいしい夕食と温泉でゆっくりできました。12月には、JA十勝地区女性協議会研修会に参加しました。南極で調理を担当した綿貫さんの講演では、食材を無駄なく使ってごみを減らし、地球環境に優しい暮らしについて拝聴しました。また、農業を守るために政治にも関心

を持ち、国政に声を届けられるよう「農政学習会」を実施、他にも災害に備えて「Doはぐ」という避難所運営ゲームを行いました。こうした色々な活動を通じ、少ない人数でも意見を出し合い、楽しく充実した時間を過ごせるよう考えていきます。

最後に、本年も皆様にとりまして健康に満ちた良い年となりますよう、心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



2025

謹んで新年のお慶びを申し上げます

代表理事組合長

専務理事

理
事

11

11

11

11

11

常務理事

代表監事

監事

常勤監事

新得町醸農振興会 会長

新得町乳牛検定組合 組合長

新得町黒事振興会 会長

新得町肉牛振興会 会長

新得町和牛改良組合

新得田畠竹批興会 會長

新得畠蔬菜生產振興會

新舊曆百合根生一座紅百合 紅百合

新舊曆合

新得時慶廿二年正月
書於長

フレツシユよつ葉会 会長

フレツシユよつ葉会

フレツシユよつ葉会

他職員一同

太田 湯浅 野澤 齋藤 伊藤 恵次 真弘
須甲 藤岡 祐也 千田 弘樹 武藤 幸太 孝良 健悟 幸義
高野 淳 山田 保彦 五十嵐良和 五十嵐良和
友定 雄平 長野 功 小里 雅毅 千葉 典弘 児玉 和仁 尾名 貴夫
他職員一同 橋本 享樹 村田 純一 村上 明弘 村上 かよ子 紗衣

地域懇談会



令和6年度農業経営と農協事業を語る地域懇談会を12月11日、JA新得町集会室にて、午前・午後に分けて開催いたしました。11月30日時点での農協主要実績を中心として、各部門の事業や状況について全8件の案件で行われました。多数の組合員の皆様にご出席いただき、様々な意見を頂戴致しましたことに深く感謝申し上げます。



青年部活動

J A十勝青年部大会

11月25日、帯広市ホテル日航ノースランドにて、第49回JA十勝青年部大会が開催されました。JA新得町青年部からは5名が参加しました。懇親会も開催され、アーマレスリング大会では副部長の伊藤堯洋さんが出場しました。



全道JA青年部大会

札幌パークホテルにて、12月5～6日にかけて第73回全道JA青年部大会が開催され、JA新得町青年部から4名が参加しました。「動画で発信！農の魅力コンテスト」にて、JA北海道女性協議会会長賞を受賞しました。



女性部活動

よつ葉会クリスマス会

12月24日に、新得町公民館にてクリスマス会を開催しました。大人9名、子供12名、総勢21名の参加となりました。クリスマスプレゼントの抽選会などをを行い、交流を楽しみました。

理事会の動き



第10回 令和6年12月26日開催

報告事項

- 第1 出資加入・脱退・増口申込者について
- 第2 令和6年度第3四半期主要勘定及び損益対比について
- 第3 余裕金の運用状況について
- 第4 内部監査の結果について
- 第5 令和6年度第3四半期自己監査の結果について
- 第6 令和6年産主要農産物集荷実績について
- 第7 令和4・5・6年産共計品目（小麦・大豆・澣原）概算・本精算について
- 第8 農産物売買に係る利益相反取引の報告について
- 第9 11月末畜産物取扱実績について
- 第10 令和6年度（株）新得営農サポート事業実績について
- 第11 その他

協議事項

- 第1号 出資減口申込者について
- 第2号 規程類の改正について
- 第3号 令和6年産人參本精算について
- 第4号 令和6年産加工馬鈴しょ本精算について
- 第5号 西十勝農業センター再編について
- 第6号 令和7年度 特定組合員営農計画について
- 第7号 固定資産の取得について
- 第8号 役員改選に伴う役員推薦委員の選出について
- 第9号 その他

第9回 令和6年11月25日開催

報告事項

- 第1 内部監査並びに内部監査受託に係る監査結果について
- 第2 マネロン等の防止にかかる対応状況報告について
- 第3 令和6年度特定組合員12月末見込協議結果について
- 第4 令和6年度主要農産物取扱実績について
- 第5 令和6年産共計品目（小麦・澣原馬鈴しょ）概算払等支払実績について
- 第6 令和6年産買取品（豆類）支払実績について
- 第7 10月末畜産物取扱実績について
- 第8 その他

協議事項

- 第1号 職員の年末手当支給について
- 第2号 令和6年度の理事に対する組勘供給限度額変更について
- 第3号 令和6年度の理事に対する組勘貸越限度額変更について
- 第4号 資金貸付に係る利益相反取引について
- 第5号 破綻懸念先への貸付金に係る条件変更及び利益相反取引について
- 第6号 普通送金の取扱廃止等を踏まえた信用事業方法書の変更について
- 第7号 令和7年度特定組合員営農計画内容協議日程について
- 第8号 令和6年度北海道酪農体质強化対策費の支払いについて
- 第9号 その他（1）第9次農業振興計画アンケート集計結果について



～続・今こそJA～



第1回 ロッヂデール原則がすべての原点

18世紀後半、イギリスで産業革命が起こり、資本家や富裕層という人達があらわれました。街中には粗悪品があふれ、量目のごまかしが横行しており、ロッヂデールという小さな町の織物職人がその生活を守るために「ロッヂデール公正先駆者組合」を設立しました。彼らは協同組合として自ら守るべき事項を定めており、これがその後「ロッヂデール原則」と呼ばれるものとなりました。ホリヨークという人が書き留めたロッヂデール原則は次の14の項目から成り立っています。

- ① 組合は主として、自らの出資金により開店する。
- ② 可能な限り、純粋な食料品を供給する。
- ③ 目方や分量をごまかさない。
- ④ 市価で販売し、商人と競争しない。
- ⑤ 掛け売りをせず、労働者の負債を防止する。
- ⑥ 剰余は購買高に応じて、組合員に分配する。
- ⑦ 組合員をして利益を組合の銀行に貯蓄せしめ、節儉を教える。
- ⑧ 出資金に対する利子を5%に抑える。
- ⑨ 職場において得た利益は、賃金に比例して分配する。
- ⑩ 全余剰の2.5%を教育に充てる。
- ⑪ 役員の任命や議決に対し、1人1票の民主的評決権を持つ。
- ⑫ 犯罪や競争のない産業社会を建設するため、協同組合の商工業を発展させる。
- ⑬ 卸売購買組合を創設し、純良確実な食料品を供給する。
- ⑭ 協同運動を自助の精神で行い、勤勉な者に道徳と能力を保証する新しい社会の胚種の組織とする。

この14項目をすべて守ることが協同組合として必要なことであり、このどれか一つでも欠けてはいけないものです。次回以降はこの各項目について解説することにします。

貯金・組勘窓口及び共済掛金収納時間の 変更について

日頃より、JA新得町をご利用いただきありがとうございます。

誠に勝手ではございますが、令和7年3月3日より、貯金・組勘の窓口の営業時間を下記の通り変更させていただきます。

上記に伴い、共済掛金の収納時間をPM3：00までとさせていただきます。

(その他共済業務は、従来通りPM5：00までです。)

お客様には、大変ご不便をおかけしますが、何卒ご理解と変わらぬご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

令和7年2月28日（金）まで
AM9：00～PM4：00
令和7年3月3日（月）より
AM9：00～PM3：00





国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

IYC2025 2025年は 「国際協同組合年」です

国連は2023年11月3日の国連総会で、

25年を「国際協同組合年」(IYC= International Year of Cooperatives)と
することを宣言しました。これは、12年に続き2回目です。

協力：IYC2025 全国実行委員会（事務局：日本協同組合連携機構）

国連の「国際年」って？

国連では、1957年から国際年を設定しています（同年は国際地球観測年）。国際年には、世界に共通する重要なテーマについて、各国や世界全体が1年間を通じて呼びかけや対策を行うよう取り組んでいます。

国際協同組合同盟とは？

1895年に設立された国際的な協同組合の連合組織です。加盟組織は103カ国299団体（2024年4月現在）で、本部はブリュッセル（ベルギー）に置かれています。なお、加盟組織傘下の組合員数は世界全体で10億人を超えており、JAもその一つです。

なぜ国連はIYC2025を設定したの？

国連は国際協同組合同盟（ICA）と連携を図り、国際協同組合デーの開催、国連総会における協同組合振興決議、協同組合振興のための国連ガイドラインの策定など、協同組合振興に努めてきました。国連が協同組合を重視するのは、協同組合が事業や活動を通じて、女性、若者、高齢者、障害者を含むあらゆる人々の経済社会開発への参加を促し、貧困の根絶、雇用の創出、社会とのつながりの強化に貢献し、持続可能な開発などに貢献できる企業体・社会的事業体だと評価しているからです。

国連はIYC2025を通じて、次の取り組みを講じるよう、各國政府や関係機関に要請しています。

- ①持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた協同組合の実践、社会や経済の発展への協同組合の貢献に対する認知を高める。
- ②協同組合の発展を支援し、協同組合を振興する。

SDGsと協同組合

協同組合は、誰かに助けてもらうことで解決を図るのではなく、一人一人の主体的な参加を基礎に、生産や暮らしなどさまざまな面で協同し合うことによって、解決の道を切り開いていくこうという団体です。自ら事業を利用したり、活動に参加したいと考える人は誰でも加入できるオープンな組織であり、協同組合が大切にされる平等、公正、連帯という考え方方はSDGsの理念と合致します。

2025年国際協同組合年を

契機に協同組合の
アイデンティティーと

持続可能な社会の実現に向けて
学び、実践し、発信しましょう！

学ぶ

IYC2025は、協同組合のことを広く知つてもらうて共感や信頼につなげ、協同組合の事業を利用す人・活動に参加する人・働く人を広げる大きなチャンスです。「2025年国際協同組合年」をJA組合員・役職員で共有し、その意義を確認しましょう。

実践する

他の協同組合や企業、団体とつながり、「協同組合間の連携」や「協同組合でのSDGsの取り組み」を通して、その事業や活動に触れ、一緒に活動しましょう。

発信する

今、実践していることをどんどん発信しましょう。発信することで、協同組合のことを広く知つてもらい、共感や信頼につなげ、協同組合の組合員として事業を利用する人、活動に参加する人が広がる可能性があります。

協同の輪を広げて、日本を変えていきましょう！

JAグループは、協同組合として地域で助け合いの輪を広げ、持続可能な開発目標の実現に貢献しています！

第1次産業生産者の 協同組合として

地域の組合員の一ี族に対応し、経営・技術指導、低コスト資材の供給、共同販売、事業資金や生活資金の貸し付けなどにより、組合員の農業経営と生活を守ることを通じ、消費者への安全で新鮮な農産物の生産・販売と、農地保全を通じて美しい国土の保全に寄与しています。

万が一を助け合う 共済事業

共済とは、組合員の誰かが困ったときに、他の組合員全体で助けた仕組みです。私たちの生活を脅かすさまざまな危険（災害・交通事故など）に対し、組合員同士で助け合う相互扶助を具現化した保障事業です。

協同組織金融機関 として

協同組織金融機関とは、出資者でもある組合員が預貯金し合い、集まつたお金を必要なときに適切な審査の下で組合員に融資する協同組合組織の金融機関です。地域に根差して、農業経営の安定や改善、暮らしの向上などさまざまな問題解決・価値創造を手伝い、地域経済の発展に貢献します。

医療・福祉、 厚生事業

地域に密着した医療・福祉サービスの提供を通じ、安心して暮らしこそけられる地域づくりに取り組んでいます。



JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第3回「東野ひでき北海道後援会」の取組み

組織内候補者を擁立して臨んできた過去5回の参議院選挙比例区では、各組織等が精力的に取り組んだ結果、候補者は当選を果たしてきたものの、残念ながら選挙の度に大きく得票数を減らしております。

得票数減少の様々な要因はあるものの、前回選挙の総括では(ア)選挙の意義を組織構成員に伝え機運醸成する組織力の低下、(イ)世代交代や情報発信・接点等不足による候補者の認知度の低下、(ウ)職員、組合員や青年部・女性部盟友等への浸透・徹底不足、(エ)事務局体制の脆弱化等が主な要因としてあげられております。

こうした要因と危機感を踏まえ、改めて組織選挙の意義を共有の上、候補者の認知度を高め、組織力の結集による運動を徹底することが必要不可欠であります。農業・JAを取り巻く厳しい状況下において、JAグループ北海道の政策提案を実現し、組合員の営農と生活を守るためにには政治力の強化が極めて重要であります。

今後、JA役職員、組合員、青年部・女性部盟友、関係団体など東野ひでき氏を応援する者の輪を広げていくために、「なかまづくり運動」をはじめ農政学習会の開催、SNSでの発信等を繰り広げてまいります。

ひできのなかまづくり運動

【ひ】…ひとりでも多く!

【で】…できることから!

【き】…きょうから始めよう!

各々が東野ひでき氏支援を依頼する「なかま」を確実に2名以上特定し、さらに、「なかま」1名につき、新たに2名以上の「なかま」を特定し、「なかま」を広げていきましょう。



東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年夏頃まで連載いたします。
次回（第4回）は、農政活動の仕組みについて紹介します。





皆がMVPを目指す年に

(有)石田コンサルタントオフィス

代表取締役 石田邦雄



また新たな年が幕を開けました。組合員、そして職員、あるいは関係者の皆さん、明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願ひいたします。この年が生産物はもとより、互いの心もより一層豊かな年であることを願つてやみません。私の故郷である新得町。それを支える基幹産業は間違いなく農業です。その成長なくして町の発展はないといつても過言ではありません。そうした期待をこめ今後もこの紙面を通じて発信ができるらと思う年明けです。

そこでこんな話を。それは組合員、職員の皆さんがこそつて「MVPを目指す1年に」ということです。皆さんは「MVP」というと何を思い描かれるでしょうか?これはスポーツなどよく聞かれる言葉で、「最優秀選手」が一般的ではないでしょうか。ただ今回話題にする「MVP」はそれとは異なり、仕事を進めるにあたりとても大切な3つの要素をいいます。その言葉の意味はこうです。まずはM。これは「mission」のことで、使命感と訳されます。皆さんは一農業者として、あるいはそれを支える一職員として、どのような使命感を持ちながら業務に取り組んでおられるでしょうか。次のVは「value」を意味し価値観などと訳されたりします。これは当然、人それぞれ異なります。あなたは仕事に際し、何に価値を感じ見出だしながらされておりま

すか?私はよく「あなたの働く意味は?」と尋ねることがあります。これへの答えが該当するかもしれません。

仮に新入職員があなたに預けられたとしましょう。すると右肩上がりで順調にというのは極めて稀で、むしろ壁にぶつかるのが当たり前といえます。そこで悩み抜いた後輩が「先輩はよくこの環境に耐えてやっておられますね。何故ですか?」と問われたとしたら、それに対する答えがこれに類することといえるでしょう。もう一つのPは「pride」であり誇りや自尊心などをいいます。これが持てない仕事なら、より良い成果に結びつかないのは自明の理です。

この年は互いに以上の3つを確固なものにできるよう日々磨きたいものです。その為にも厳しい経営環境にある農業ではありますが、そこにどのような夢やビジョンを見出していくか、これがまさに経営層が担う最も大きな役割ともいえます。この両者がうまく機能することで、俗にいう「モチベーション」を、より高次の「コミュニケーション」にまで高めることができます。ちなみに両者の言葉の解説をしますと、仮にあなたが収穫祭の企画からその実行までを任せられ、それを意気に感じ「よし頑張るぞ!」とやる気が増します。でもそのイベントが終わったら一気に失せてしまう…これが前者です。もう一方の後者は、収穫祭が終わってからも、農業が持つ

素晴らしい身をもつて感じ、イベントに携わった経験を生かしながら更なる地域の発展や社会貢献への思いが募る…これが後者です。こうなるにはMVPは不可欠ともいえます。

そうしてやがて一年の終わりには、自分自身にこれとは別のMVPをご褒美として与えられる…そんな風になればたらどんなに素敵なことでしょう。そうなるか否かは結局はこれを読まれているあなた次第です。

1年のスタートにあたるこの号の終わりに、私が大好きなジョン・ラボックの言葉を贈ります。

「他人と自分を比較して、他人が優れていても決して恥ではない。だが去年の自分よりも今年の自分が優れていないのは立派な恥だ」

いしだくにお
石田 邦雄
1946年北海道新得町生まれ。(有)石田コンサルタントオフィス代表取締役、めぐる研究室主宰。国鉄、会計事務所を経て中小企業診断士として独立開業。現在は社会保険労務士、シニア産業カウンセラーなどとして、組織改革や人材育成を軸に、人と企業のマッチングを目指す活動を展開。これまで全国信用保証協会連合会や酪農ヘルパー全国協会を始め、北海道庁、北洋銀行、北海電工など多くの団体や企業で人づくりを支援し、中小企業大学校を始めJAカレッジなどで講師として携わる。体験学習等を交えた「教えるよりも考える」「学ぶよりも気づく」が講義における基本スタイル。なお著書も多く「産業カウンセリング」や「豊かに働き、すてきに生きる」など多数。



土日ミルク

j-milk 牛乳のスマイル

キュウニユウがあらわれた！



キュウニユウを 1パイのむと
1ニチにひつよな カルシウムの
3ブンの1をゲットできるようだ！
でもドニチは給食がない！ ピンチだ！

給食のない休日、
おうちで牛乳を飲む？

JA 新得町 「しんとく」 Vol.302

■発行日 令和7年1月

■発 行 新得町農業協同組合 <https://www.ja-shintoku.or.jp>

■編 集 管理課管理係 TEL (0156) 64-5021



JA新得町